

校長室だより(No.38)

令和3年12月28日
丹波市立黒井小学校長
谷口 千尋

あいさつのムコウにあるもの

今年も残り僅かとなりました。子どもたちは、1月6日まで冬休みとなります。始業式には元気に登校してくれることを楽しみにしています。

さて、子どもたちの挨拶について黒井小学校は、学級や学年、児童会など学校全体で取り組んできています。特に児童会では、毎日挨拶を交わせた児童の数をカウントし、下校集会で全校児童にその数を紹介することで挨拶の意識づけを行っています。コミュニティ・スクールにおいても「あいさつロード」を設定し、啓発の幟を立てる取組もされてきたところです。「挨拶ができる子どもたちに」ということが、学校や地域の共通した願いです。挨拶の効果については、その意義も含めまして多くのことが言われていますのでここでは触れずに、挨拶をする子にしていくなめには、何が必要かを考えたいと思います。

ご存知の方も多いと思いますが「マズローの欲求5段階説」というものがあります。人間の欲求は下から①生理的欲求 ②安全欲求 ③社会的欲求 ④尊厳欲求 ⑤自己実現欲求の5つの段階があります。5段階のピラミッドで、底辺から始まり、その階が満たされると次の一つ上の欲求を目指すというものです。挨拶は、下から4つ目の「尊厳欲求」にあたると言われています。各段階を簡単に説明しますと、

①生理的欲求…食事や排泄など生理的な欲求です。「トイレがある」「給食がでる」などの生理的な欲求が満たされることが最初の条件です。

②安全欲求(安全・安定)…「安全・健康に暮らしたい」という欲求です。怪我やトラブルを防ぐためのルールが学級や学校で決められていることが条件です。よって、「いじめ対応」もこの段階です。いじめがあるクラスでは安全欲求が満たされないということになります。「安心感のあるクラスづくり」が大切な土台となります。

③社会的欲求(所属)…クラスの安定の上に仲間づくりが始まります。友だちや学級・学年という居場所を求めるようになります。学級活動や学校行事、係活動、クラブ活動など子どもに居場所を見つけさせることでいよいよ挨拶の段階に行けます。

④尊厳欲求(承認)…友だちや先生から認められたいという欲求です。この段階では「テストでいい点を取りたい」「みんなにほめてもらいたい」「速く走りたい」という自分の思いから動くようになります。

承認には、相手の「行動」に対して行うもの(行動承認)と相手の「存在」について行うもの(存在承認)の2種類があります。行動承認は、「ほめる、叱る、評価する、表彰する、ねぎらう、お礼を言う」などで、存在承認は、「あいさつをする、名前を呼ぶ、変化に気づく、声をかける、目を合わせる、役割を与える、共感する」などです。

⑤自己実現欲求…「安全・安心で、居場所があり、周りからの認められている」この状態になれば、自己実現の段階にあます。自分の能力を試したい「どんどんチャレンジしたい」という状態です。

子どもたちが挨拶をするように、まずは、「人ひとりに安心できるルールがあるのか」「いじめや暴力、仲間外れで悩んでいないか」「友だちの交流の場は十分あるのか」などまずは土台となる学級づくりを見直して、その後、授業・行事・クラスでの活動などを通して、学級の一体感を高めたいと、家庭と協力しながら自己肯定感を高めたい工夫をしていきたいと考えます。